



松木島八幡社

せんぐう かぜ 遷宮の風だより 第6報

発行元

松木島八幡社第19回式年遷宮委員会

令和5年7月1日

今回の遷宮だよりは、神殿を覆う工事用の屋根が取り払われ、真新しい銅板の屋根がお目見えしました。表現は良くないですが、まるで新品の10円玉のような輝きになっています。少しずつ遷宮の準備が整ってきました。

また今月は、16日に行われる“雷祭り”の云われなどについてお伝えしていきます。

しんでん ふ か 神殿の屋根の葺き替え工事が終わりました

昨年の10月に工事用仮設の屋根が設置され、銅板の葺き替えが行われてきました。3月下旬に仮設の屋根が解体されると、まばゆいばかりの屋根が姿を現しました。



令和4年9月：葺き替え前



令和5年3月末：葺き替え後

はいでん うわじき たたみ 拝殿の上敷きを畳に変えました

今回の遷宮では、いろいろな備品が交換されます。これまで拝殿には、板張りの上に畳ではなく上敷きが敷かれていましたが、畳に敷き替えることとなりました。

拝殿内は、真新しい“畳”独特の良い香りがします。



かみないまつ 一口メモ：雷祭りの云われ



子ども会による打ち込み太鼓

新型コロナも落ち着きを見せ、今年も雷祭りが開催されます。ところで、なぜ“雷祭り”と云われるようになったのでしょうか。

その昔、拝殿の裏に天然記念物級の1本の大きな松があり、この松の木に落雷があったそうです。その後、この松は枯れてしまったようです。落雷の日が7月20日ではないかということで、毎年7月20日に行われる祭りを“雷祭り”と呼ぶようになったということです。

この雷祭りも今では、20日前後の日曜日に行われるようになりました。

ごしんぜん 今回の透かし：御神前のぼり

御神前のぼりは1年に3回建てられます。7月の雷祭り、10月の本祭、そして年末年始です。20年に亘り風雨にさらされましたので、この“御神前のぼり”も遷宮に合わせて新調されます。

2022/0

